教育方法Ⅱ
Teaching Methods Ⅱ

HAYAKAWA Shinichi　早川　信一
KODAMA Keiichi　児玉　佳一

科目ナンバリング：UTL-2-311-05

■授業の目的及び到達目標
教育の方法と技術、教育機器及び教材の活用について、法令や学習指導要領の知識、指導技術、具体的な事例に基づく実践等を通して、授業に必要な実践的指導力を身に付けることを目的とする。免許取得教科の学習指導案を作成できるようにするため、それに必要な指導計画、指導技術、学習評価等の知識・技術を修得することを到達目標とする。

■授業計画
1 教育の方法、授業における指導技術(発問)
教育の方法と技術・ガイダンス機能について理解を深め、授業における会話の特徴を示しながら、わかりやすい説明や指示、効果的な発問の仕方等について、具体的な事例を通して検討する。
2 授業における指導技術(コミュニケーション)
授業分析として、教師と生徒との相互作用分析を紹介しながら、授業におけるコミュニケーションの在り方について検討する。
3 授業における指導技術（板書）
授業における板書の意義、機能及び手法、ノート指導と机間指導の意義等について、事例を通して検討する。板書とＩＣＴを活用する授業展開の違いについても触れる。
4 教育機器の活用
視聴覚教育の歴史、意義、効果について解説し、電子黒板等の教育機器を効果的に活用する手法について検討する。実際の授業の映像を観察しながら解説・考察する。
5 情報化社会への対応と情報モラルの育成
情報化社会の光と影、情報モラルの在り方について、教育委員会の対応等も確認しながら解説するとともに、情報活用能力を育成するための指導法について検討する。
6 学習指導案の作成
指導計画の意義と方法、学習指導案の作成方法について解説するとともに、生徒観、教材観、授業の展開の仕方などについて検討する。実際の教育実習での対応についても講義する。
7 障害への対応
ＬＤ及びＡＤＨＤ、高機能自閉症の生徒の特徴や指導上の配慮について解説し、学習指導上の支援の在り方について検討する。個別指導計画に基づく組織的な対応について取り扱う。事例を示し、様々な対応法を解説する。
8 学習への適応と生徒理解
小１プロブレム、中１ギャップなどの問題を取り上げ、学習上の不適応が生じる要因について解説し、教師の生徒への働きかけの具体的方法について検討する。
9 教科書の取扱い（教材・教具）
教科書使用の法的根拠、教科書検定制度、採択制度について解説し、教材・教具の取扱いと活用について検討する。
10 学校図書館の活用と読書活動
学校図書館の活用と読書活動の推進の意義を解説し、具体的な事例を通してその指導方法を検討する。
11 教育評価の理論
絶対評価、相対評価、個人内評価などの教育評価の形態、診断的評価、形成的評価、総括的評価などの教育評価の形式、自己評価、パフォーマンス評価等について解説する。
12 教育評価の実際
生徒指導要録の取扱いについて解説し、観点別学習状況評価の在り方、評価規準、評価計画、評価の精度について、事例に基づいて検討する。
13 学修のまとめ
教育方法IIで扱った内容について論述形式等の試験を行い、フィードバックとして解説する。

■授業の方法
毎回テーマを定め、教科書・参考書、資料を活用しながら講義及び課題解決学習を行う。講義では、教育理論、実態を表すデータ、実際の事例、法令知識を提示しながら進めていく。教育機器の活用では、実際に撮影した動画を示しながらイメージを形成する。

■予習・復習
予習として、ブラックボードシステムに示した教材を事前に読み込んでおく(１時間程度)。
復習として、授業で指示した課題を整理し、自分の考えをまとめ提出する(１時間程度)。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
課題の提出状況から授業への取組を評価する。論述形式の試験を行い、到達度を評価する。試験６０％、学修への取組状況（課題の達成状況等）４０％

■教科書・参考書
参考書：文部科学省『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説総則編』、文部科学省『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説総則編』を使用する。授業内で作成資料等を配布し、指示する。

■関連する科目
「教育方法I」（学ぶ順序はIからでもIIからでも可能）。一年生で学修した教職論を振り返りながら、各教科教育法の学びにつなげる。